

雄勝稲作情報

No.2 令和3年4月9日



発行 ● こまち農業協同組合
 うご農業協同組合
 湯沢主食集荷商業組合
 湯沢市農業総合指導センター
 東成瀬村農業総合指導センター
 秋田県農業共済組合
 監修 ● 雄勝地域振興局農林部農業振興普及課
 雄勝地方病害虫防除員協議会

**育苗期防除（ベンレート水和剤か
 ビームゾル）は箱施用する方でも
 必ず実施！**

育苗期のいもち病防除を徹底しましょう！

育苗期にいもち病が発生し、それに気づかずに田植えすることで田んぼで大発生します。
 育苗期防除（ベンレート水和剤もしくはビームゾル）と本田防除（箱粒剤、側条施用剤）の**両方実施**で安定した防除効果が得られます。

育苗期防除剤と体系処理の例

☆本田への伝染・発病苗の持ち込みを防ぎます。**必ず実施しましょう。**

薬剤名	散布時期	箱当り使用量	備考
ベンレート水和剤	は種時～は種7日後頃	500倍液 500ml 1,000倍液 1,000ml	かん注
ビームゾル	緑化始期	500倍液 500ml	かん注

いもち病と立枯病の育苗期防除例

は種時



は種7日後頃



ダコニール1000 + **ベンレート水和剤**

タチガレエースM液剤
ナエファインフロアブル

ダコニール1000 + タチガレエースM液剤
ナエファインフロアブル

ベンレート水和剤

ダコニール1000 + タチガレエースM液剤
ナエファインフロアブル

ビームゾル

適正条件で種子予措（種子消毒・浸種・催芽）を実施

いもち病発生に応じて本田防除（コラトップ等）

本田防除剤

育苗箱施用剤 → 床土混和・は種時散布・田植時散布
 は、本田から（田植後）効果を発揮します。

薬剤名	散布時期	使用量	
ファーストオリゼプリンス粒剤6 ファーストオリゼフェルテラ粒剤 ファーストオリゼパディート粒剤	床土混和又は、 は種時（覆土前）	50g / 箱	
ヨーバルトップ箱粒剤	は種前（床土混和）～ 移植当日	移植当日の散布の様子	
ツインターボ箱粒剤08 スタウトダントツ箱粒剤08	床土混和又は、は種時 （覆土前）～移植当日		
ルーチンパンチ箱粒剤	は種時（覆土前）～ 移植当日		
Dr. オリゼフェルテラ粒剤 Dr. オリゼパディート粒剤	緑化期～移植当日		
箱大臣粒剤	移植7日前～移植当日		
デジタルメガフレア箱粒剤	移植前3日～移植当日		
側条オリゼメート顆粒水和剤	側条施用		500g / 10a*
コープガードD-発664	移植時		40～50kg / 10a

※側条オリゼメート顆粒水和剤は250g / 10aの散布でも十分な効果が確認されています。

水稻育苗後に野菜、花きを作付する場合の注意点

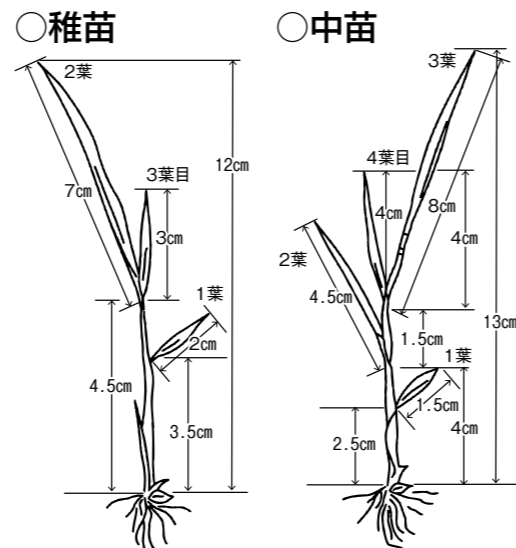
- 水稻育苗後に野菜などを作付けする場合は、農薬が土壤に浸透しないように、苗箱の下に水を通さない無孔シートを敷きましょう。
- 箱粒剤は、苗を育苗ハウスの外に出してから畦畔で散布するか、田植え同時散布機（箱まきちゃん等）で散布します。

地域で協力して苗不足解消を

- 今年は豪雪により、水稻育苗ハウスが多数倒壊しました。育苗ハウスの立て直しが間に合わないなど、苗不足が懸念されます。地域ごとに連絡を取り合い、苗不足の農家がいたら工面するなど、協力して苗不足を解消しましょう。

目標とする苗の姿

項目	稚苗	中苗
箱当りは種量	180g	100g
必要箱数	19箱/10a	27箱/10a
準備種子量	乾粳4kg	乾粳3kg
育苗日数	20日~25日	35日~40日
葉数	2.0~2.5葉	3.5~4.0葉
出芽長	1cm	0.5cm
移植	平均温度は13℃以上、20~22株/m ² 、1株植付け数4~5本で生育・収量の安定性が高い	平均温度は14℃以上、20~22株/m ² 、1株植付け数3~4本で生育・収量の安定性が高い



育苗の管理について

温度計の設置は育苗箱のすぐ上に！



適切な温度管理を！

こまめな管理を心がけ、過度の低温・高温や急激な温度変化を避けましょう。

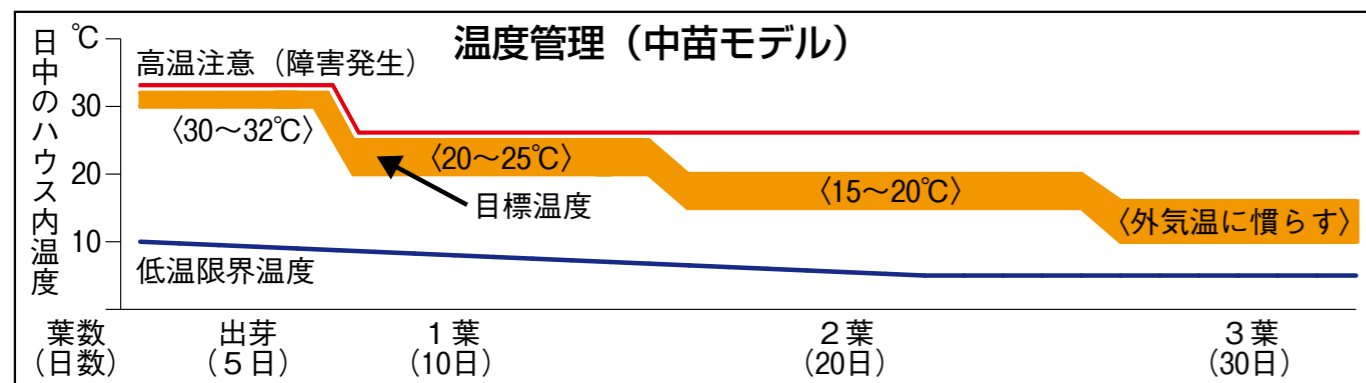
タップリかん水で、回数はできるだけ少なく！

朝方に充分かん水し、回数をできるだけ少なくします。

夕方のかん水は、箱内温度を下げるので行わないようにします。

カビなどの発生に注意！

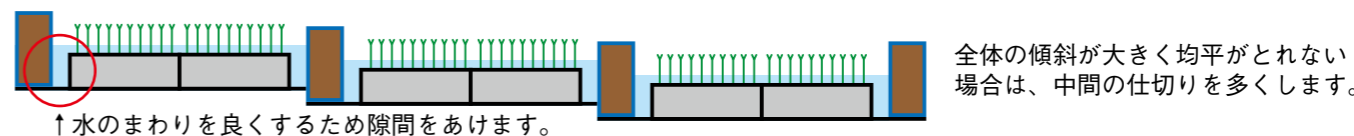
本年も、は種後寒暖差が大きくなることが予想されます。カビなどの病害は、ベタ張り期間に感染するものが多く、床土の過乾・過湿に注意しましょう。



プール育苗の水管理、温度管理

- プール育苗は、水管理や温度管理作業の軽減となり、慣行育苗法で発生しやすい病気の発生を抑制することができます。
- プールに水を入れる時期は、本葉が1葉以上になった頃にします。1回目の水を溜める深さは、苗の生長を促すため、苗箱の床土の高さまでとし苗が水没しないようにします。2回目以降は、箱下に水がなくなる部分が現れたら注水します。2回目以降の水を溜める深さは床土から1cmまでとし、草丈の1/3以上の深さにはしない。湛水間隔は概ね5~7日にします。
- ハウス内の気温は慣行育苗法よりも低めに管理します。苗が伸びやすいので、最低気温が5℃以上の場合は早期より換気を行います。プールに水を入れ始めたら、昼夜とも裾ビニールを解放します。低温が予想される場合は夜間に裾を閉めて箱上まで湛水します。
- もみ枯れ細菌病対策のプール育苗について、効果を高めため、加温出芽後の緑化期から常時湛水状態を保ちます。出芽ムラに注意します。

葉齢	は種	出芽	1葉	2葉	2.5葉	3.5葉
かん水及び湛水深						
置き床準備	出芽	緑化	湛水開始	落水	田植	
・置き床の均平 ・マット敷き ・床土量の調整	・育苗箱を並べる	・プールを作る ・緑化後湛水 ・ハウスの裾は夜間も開放 (降霜時は保温)	・温度管理に注意 ・徒長しやすい	・追肥は慣行	・2~3日前に落水	・マット形成



本田の準備について

- 用水保持のため、漏水防止対策を確実に実施しましょう。
- ネズミ穴やケラ等による畦畔からの漏水を防止するため畦塗りを行いましょう。あわせて、床締め、排水部分の確認および補修を行いましょう。
- ロータリー耕うん作業は、根域確保のため、耕深15cmを目標に行いましょう。
- 代かき整地は、作土表面を均一にし適度な透水を伴うよう、浅めに丁寧に行いましょう。

ばか苗病、もみ枯れ細菌病に注意

【ばか苗病】

ばか苗病による徒長は、早い時には第1葉期から、一般的には第2葉期からみられます。

採種ほ場周辺に、ほ場をお持ちの方で、苗箱にばか苗病が見られる方はJA等の関係機関までご連絡ください。



【もみ枯れ細菌病】

出芽温度が32℃を超えると多発しやすくなります。また、被覆期間が過剰に長い場合や、出芽後の再被覆を行った場合にも発生が増加します。緑化期以降は25℃以上にならないよう注意し、過湿にならないようかん水は午前中に行います。

